

## 第 17 回日本統計学会春季集会の報告

大森 裕浩（日本統計学会理事長）

吉羽 要直（企画・行事委員長）

中山 厚穂（実行委員長）

第 17 回日本統計学会春季集会が 2023 年 3 月 4 日（土）に東京都立大学南大沢キャンパスにて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催されました。第 13 回春季集会以来の 4 年ぶりの懇親会と現地会場での 2 つの出展も実現しました。今回の集会では、招待講演による 4 つの企画セッションと 1 つの基調講演、そしてポスターセッションが企画され、活発な議論が交わされました。

午前は、1 号館 1 階 120 教室にて、開会式の後、2 つの会場に分かれ、2 セッションが並行して実施されました。120 教室では、開催校による「金融データサイエンス（オーガナイザー：吉羽要直、東京都立大学）」、110 教室では「米国の多様性推進の取り組みに学ぶ（オーガナイザー：松井知子氏、統計数理研究所、渡辺美智子氏、立正大学、南美穂子氏、慶應義塾大学）」がそれぞれ実施されました。

ポスターセッションは、昼休みのコアタイムを第 1 部、第 2 部に分けて、現地とオンラインの各会場で別々に開催され、学部生、大学院生、若手研究者を中心として現地 27 件、オンライン 1 件の計 28 件の発表がありました。現地会場では、ドリンク・スポンサーによる飲み物も提供され、来場者との熱心な議論により有意義な研究交流がなされました。

午後は、同じく 1 号館 1 階の 2 つの会場にて 2 セッションが並行して実施されました。120 教室では「小データでの効率的な機械学習の実現のためのドメイン適応技術（オーガナイザー：樋口知之氏、中央大学、松井孝太氏、名古屋大学）」、110 教室では共催の統計質保証推進協会による「統計検定をめぐる現状と課題、そして発展（オーガナイザー：美添泰人氏、青山学院大学、中西寛子氏、統計数理研究所）」がそれぞれ実施されました。

その後、現地で参加された Simon Wood (University of Edinburgh) 氏による基調講演が各務和彦氏（名古屋市立大）、荒木由布子氏（東北大学）のオーガナイズのもとで、120 教室で行われました。

最後に、ポスターセッション表彰式と閉会式が行われました。優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は鈴木莞司氏（東京大学）、新垣隆生氏（横浜国立大学大学院）の 2 名に、学生優秀発表賞は助田一晟氏（東京大学大学院）に授与され、樋口知之会長より表彰されました。また、川崎茂氏（一般財団法人統計質保証推進協会統計検定センター長）より、優秀発表賞と学生優秀発表賞の受賞者に対して統計検定センター長賞を贈呈していただきました。なお、今年の春季集会の参加者は現地参加 136 名、オンライン

参加登録・講演者 103 名の計 239 名でした。

春季集会はオーガナイザーの先生方にセッションを企画して頂いています。並行して開催するセッションの数が少なく、じっくりと研究発表を聞くことができるのが、春季集会の特徴です。また若い世代の研究者に積極的にポスター発表をしていただきました。今回も現地とオンラインとそれぞれでの開催となりましたが、現地での発表が大半になりました。今回の春季集会も多く発表者と参加者に恵まれ、盛会のうちに終了することができました。最後に、本集会を成功裏に導いてくださった方々に感謝申し上げます。

春季集会 URL :

<https://jss2023spring.ywstat.jp/>

ポスターセッション優秀発表賞

受賞のことば

鈴木 莞司 (東京大学)

この度は優秀発表賞にご選出いただき大変光栄に存じます。多くの方に発表を聞いていただき、大変参考になるコメントをいただくことができました。このような機会を準備してくださった先生方、研究に対してご意見、ご質問をくださった方々に、厚く御礼申し上げます。また、日頃からお世話になっている共著者の桜井悠司さん、五島圭一さんにも、この場を借りて御礼申し上げます。さて、本報告では、暗号資産同士の依存関係を定量化する新しい統計量を提案して、ポートフォリオ運用の観点から暗号資産のメルトダウンリスクを定量化しました。同時に、発見された非対称な依存関係を十分に説明する事ができるような新しい時系列モデルを開発いたしました。今回の受賞を励みに、今後もさらなる研究に邁進してまいります。

受賞のことば

新垣 隆生 (横浜国立大学大学院)

この度は、優秀発表賞という栄誉ある賞に選出していただき誠にありがとうございます。ポスターセッションを運営してくださった先生方、審査に携わってくださった先生方に改めて感謝申し上げます。そして日頃より丁寧にご指導いただいている黒木学先生にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本発表では、異なる処置に対応する潜在結果変数の同時確率に対する識別可能性とその推定方法について報告させていただきました。潜在結果変数の同時確率の推定は大変難しい問題ですが、特定の条件を満たす代理共変量が観測されるような状況において、単調性のような強い仮定を置かずとも一致性を持つ推定量を提案することができました。

発表では多くの質問や関連研究等についてのコメントをいただき、大変勉強になり

ました。いただいた質問・コメントと今回の受賞を励みに、自身の研究にこれからもより一層邁進して行きたいと思います。

#### ポスターセッション学生優秀発表賞

#### 受賞のことば

助田 一晟（東京大学大学院）

この度は学生優秀発表賞をいただき、大変光栄に思います。貴重な場を設けてくださいました大会運営の皆様、先生方に心より感謝申し上げます。また、日頃より丁寧にご指導いただいている清智也教授にもこの場を借りて御礼申し上げます。発表では多くの方々にご質問・ご指摘いただき、また大会後も懇親会という場で同世代の学生たちと交流ができ、今後の研究活動の面からも大変実りのある一日となりました。

本発表では、最小情報コピュラ（エントロピーの意味で最も自然な形状のコピュラモデル）について、順位相関係数を制約として与えた場合に関する考察を紹介しました。今回の受賞を励みにして、より一層研究活動に邁進し、コピュラ統計学の発展へ貢献して参りたいと思います。